

かんきょう新聞

2023 年
12 月発行
うみがめ課3 年ぶりに福津市でウミガメの産卵が
確認されました

令和5年8月1日の朝、見守り活動が続ける「勝浦うみがめ塾」のメンバーにより、アカウミガメとみられる足跡が発見され、124個の卵を産んでいたことが確認されました。福津市の海岸にはウミガメが産卵に訪れます。そのウミガメについて紹介します。



▲ 発見されたウミガメの足跡



▲ 実際の卵



▲ 海に向かって進むアカウミガメの幼体

ウミガメについて

ウミガメは海に生息するカメのことをいい、世界には8種類いるとされています。

そのうち、日本の砂浜で産卵が見られるのは、アオウミガメ、アカウミガメ、タイマイの3種であり、福津市に産卵に訪れるのはアカウミガメです。福岡県でウミガメが産卵するのは珍しく、福津市は県内でも数少ない産卵場所です。

●アカウミガメの特徴

体全体が赤っぽく、大きさは70cm～110cm（甲長）です。

アカウミガメは肉食で、貝類、甲殻類、クラゲなどを主食としています。頭部が大きく、あごがとても頑丈なため、かむ力が強く、貝やヤドカリを食べることができます。



▲ アカウミガメ

今回産卵に来たカメ

足跡の違い

種類	アカウミガメ	タイマイ	アオウミガメ
足跡			
	左右の足を交互に動かす		左右の足を同時に動かす
尾の跡	やや直線的	規則的に振れる	直線的

●ウミガメの足跡の違い

ウミガメは種によって歩き方に違いがあります。アオウミガメは左右の足を同時に動かすため、足跡も左右対称です。アカウミガメは左右の足を交互に出して進むため足跡は互い違いになります。また、タイマイは規則的に振られた尾の跡が残ります。

●産卵からふ化

夜になると砂浜へ上陸し、波をかぶりにくい高い場所を目指します。高い場所へたどり着いたら、後足を使って穴を掘り、卵を産みます。卵を産み終えると、その穴を隠して、海へ帰っていきます。卵はピンポン玉サイズで、1回の産卵で100個ほど産みます。

産卵から約2か月後にふ化し、一斉に砂の中から地上へ出て沖に向かい大きくなります。

●ウミガメを見つけたら

産卵のために上陸したウミガメは、産卵を始めるまでは非常に警戒心が強く、光や音に敏感です。ちょっとした刺激であっても、産卵をやめて海へ帰ってしまうことがあります。

上陸したカメを見つけた場合は、静かにその場を離れ、大声で話したり、ライトで照らしたりしないようにしましょう。

また、生死に関わらず、福津市内でウミガメを目撃した場合は、うみがめ課へ連絡してください。

福津の海岸を守る

福津市でウミガメの産卵が確認されたのは令和2年以来、3年ぶりとなりました。

しかし、今回の卵は全て無精卵であつたため、ふ化することはありませんでした。

とても残念でしたが、ウミガメが福津の海岸を産卵場所として選んでくれたことは事実です。福津市には「ウミガメ保護条例」があり、6月から10月までの間、市民や事業者の皆さんに、砂浜への車両の乗り入れの自粛を求めたり、監視を行うなどして、海岸の保全に努めています。今後も福津市に産卵しに来てくれるように、きれいな海岸を保ち続けなければなりません。

▲ 地中から脱出するアカウミガメの幼体
(令和2年撮影)